

説明会資料

令和7年度 つばさ南小・つばさ北小の統合による
小中一貫教育校について

令和4年6月
川島町教育委員会

目次

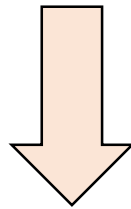
- | | | |
|---|-------------------|-------|
| 1 | 町の教育環境整備にかかる取組 | 1ページ |
| 2 | 小中一貫教育とは | 2ページ |
| 3 | 小中一貫教育を進める背景・理由 | 3ページ |
| 4 | 小中一貫教育校の校舎整備イメージ | 10ページ |
| 5 | 小中一貫教育でやること できること | 15ページ |

1 町の教育環境整備にかかる取組

これまで の取組

将来の児童・生徒数を見込みながら、小規模校の教育環境の整備を図るため、「**学校規模の適正化**」を進めてきました。

※ 平成30年3月に、三保谷・出丸・ハッ保・小見野小学校を廃止し、同年4月につばさ南・北小学校を開校しました。



平成30年度から令和3年度の4年間に、「川島町小中一貫教育推進協議会」で、小中一貫教育の推進について検討しました。

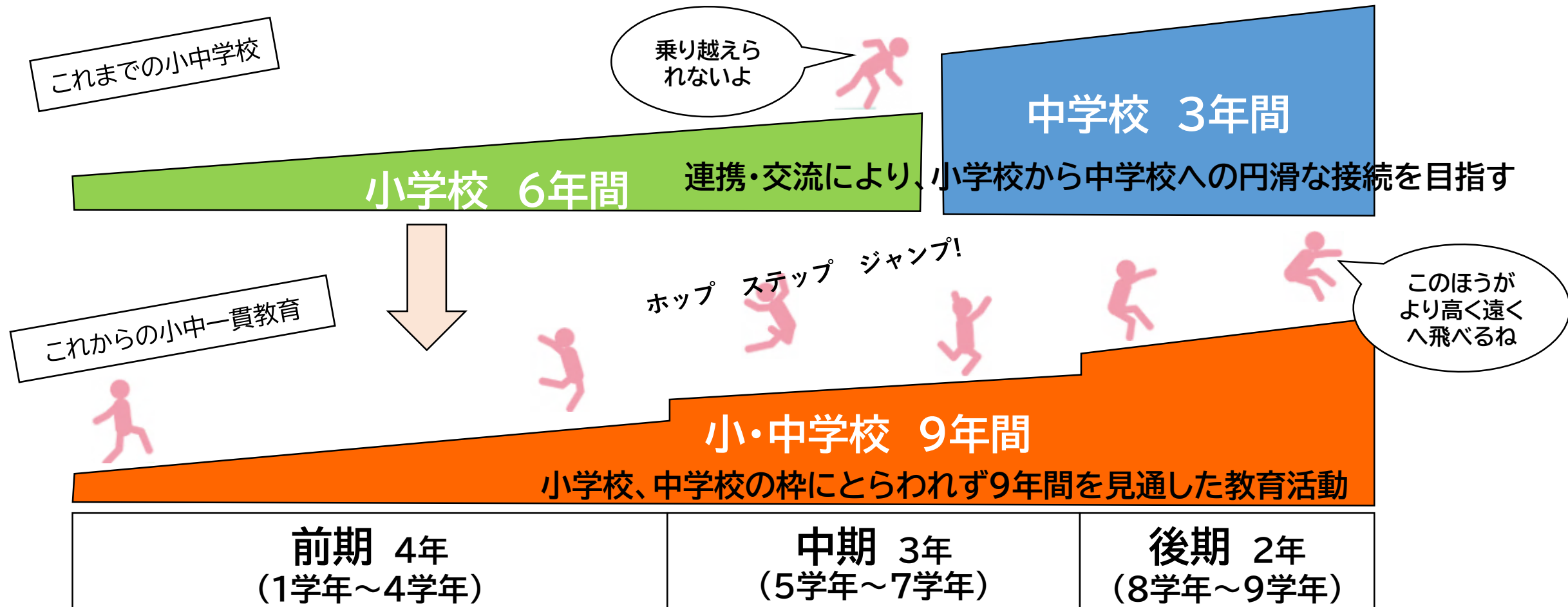
これから の取組

将来の児童・生徒数を見込みながら、今後も、「**学校規模の適正化**」に取り組むとともに、さらに質の高い教育活動を展開するため、

『**小中一貫教育**』を進めます。

2 小中一貫教育とは

小・中学校の教員が、目指す子ども像を共有するとともに、
9年間を通じた教育課程を編成し、**系統的な教育を目指す**ものです。



3 小中一貫教育を進める背景・理由

背景1

学校規模のさらなる 適正化の必要性

将来にわたり、児童・生徒数の減少が見込まれています。小規模校化が進むと人間関係が固定化され、成績が序列化しやすくなるなどデメリットもあります。そこで、「学校規模の適正化」を進める必要があります。さらに少子化をチャンスと捉え、特色ある9年間の教育課程を編成し、小中一貫教育を進めます。

背景2

小中一貫教育推進の必要性

子どもたちが、変化の激しいこれからの社会を生き抜くためには、質の高い学力、論理的な思考力や問題を解決する能力が大切です。また、小学校高学年における学習面や生活面への不安（これを「中一ギャップ」を解消するためにも、小中学校の教員が協力し、9年間を見通した中で、きめ細やかに子供たちを指導することが求められます。

背景3

将来、町が進める 学校施設整備の方向性

人口減少に伴う収入減などにより厳しい財政状況の中で、町内の公共施設の老朽化が進み、施設の維持管理の見直しが迫られています。このことから、町では、「小中学校」を、令和17年度を目途に1校体制に集約し、小中一貫教育校を整備する」という計画を立てています。

背景1 学校規模適正化の必要性 補足説明①

本町における学校規模の基準
(小学校の場合)

1学年2学級を基本とし、1学年単学級であっても学級運営に支障のない程度の人数(20名程度)が確保できていること
※学校教育法施行規則第41条による

●学級人数の考え方

20名

→ → →

10名

→

8~7名以下

20名を下回ってくるようになると、一般的には次第に団体競技などに制約が生ずるようになり、またグループ学習などでは、多様な見方・考え方は育ちにくくなってきます。

10名を下回るようになると、複式学級(2学年を1学級で編成)の可能性が出てきます。複式学級は、1名の教員が2学年を指導するので、学校には多大な負担を強いることとなり、きめ細かい指導は期待できなくなります。

- ◆複式学級とは
国の基準では、2つの学年で1つの学級を編成することとしています。
- ◇小学校：16人以下
(ただし1年生を含む場合は8人以下)
 - ◇中学校：8人以下

背景1 学校規模適正化の必要性 補足説明②

全校児童数の見込み(令和4年度～10年度)

は適正基準を満たさない学級

学校名	学年	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和10年度	
		人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数	学級数
中山小学校	1年	29	1	24	1	27	1	30	1	33	1	24	1	19	1
	2年	53	2	29	1	24	1	27	1	30	1	33	1	24	1
	3年	30	1	53	2	29	1	24	1	27	1	30	1	33	1
	4年	36	1	30	1	53	2	29	1	24	1	27	1	30	1
	5年	48	2	36	1	30	1	53	2	29	1	24	1	27	1
	6年	44	2	48	2	36	1	30	1	53	2	29	1	24	1
	合計	240	9	220	8	199	7	193	7	196	7	167	6	157	6
伊草小学校	1年	35	1	35	1	26	1	38	2	34	1	20	1	22	1
	2年	53	2	35	1	35	1	26	1	38	2	34	1	20	1
	3年	46	2	53	2	35	1	35	1	26	1	38	2	34	1
	4年	45	2	46	2	53	2	35	1	35	1	26	1	38	2
	5年	37	1	45	2	46	2	53	2	35	1	35	1	26	1
	6年	44	2	37	1	45	2	46	2	53	2	35	1	35	1
	合計	260	10	251	9	240	9	233	9	221	8	188	7	175	7
つばさ南小学校	1年	17	1	13	1	24	1	18	1	12	1	11	1	10	1
	2年	18	1	17	1	13	1	24	1	18	1	12	1	11	1
	3年	16	1	18	1	17	1	13	1	24	1	18	1	12	1
	4年	19	1	16	1	18	1	17	1	13	1	24	1	18	1
	5年	18	1	19	1	16	1	18	1	17	1	13	1	24	1
	6年	25	1	18	1	19	1	16	1	18	1	17	1	13	1
	合計	113	6	101	6	107	6	106	6	102	6	95	6	88	6
つばさ北小学校	1年	20	1	17	1	21	1	15	1	15	1	13	1	13	1
	2年	23	1	20	1	17	1	21	1	15	1	15	1	13	1
	3年	20	1	23	1	20	1	17	1	21	1	15	1	15	1
	4年	25	1	20	1	23	1	20	1	17	1	21	1	15	1
	5年	17	1	25	1	20	1	23	1	20	1	17	1	21	1
	6年	31	1	17	1	25	1	20	1	23	1	20	1	17	1
	合計	136	6	122	6	126	6	116	6	111	6	101	6	94	6
合計		749	31	694	29	672	28	648	28	630	27	551	25	514	25

※令和4年度の児童数は学校基本調査の数値により、令和5年度以降の児童数は、令和4年4月1日現在の住民基本台帳からの推計による

背景2 小中一貫教育推進の必要性 補足説明①

発達の早期化等に関わる現象や学習面での課題

今日、小学校高学年段階における児童の身体的発達をはじめ、児童生徒の指導面、学習面において、つぎのような指摘があります。

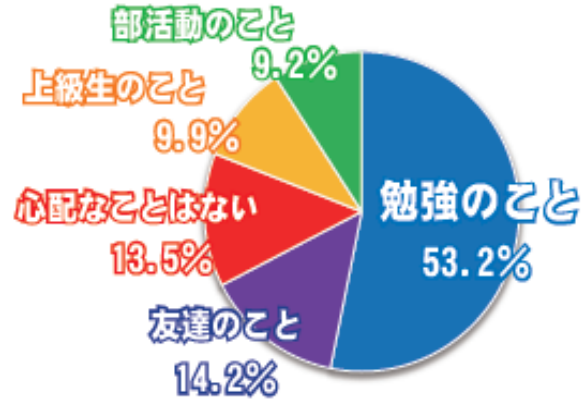
小学校高学年段階における児童の身体的発達	<ul style="list-style-type: none">・思春期の到来時期が早まっている・平均身長や体重が大きく増加する時期が昭和20年代と比較し、また、女子の平均初潮年齢が、昭和初期と比較してそれぞれ2年程度早まっている。
児童生徒の指導面	<ul style="list-style-type: none">・小学校高学年から急に、自己肯定感や自尊感情に対して、否定的になる傾向がある。
学習面	<ul style="list-style-type: none">・「学校の楽しさ」や「教科や活動の時間の好き嫌い」について、小学校4年生から5年生に上がると肯定的回答をする児童の割合が下がる傾向がある。・経験的な理解で対応できる学習内容から、理論的・抽象的な理解が必要な学習内容への接続が必ずしも円滑に行われておらず、学習上のつまずきが顕在化し、その後の中学校段階での学習に大きな支障が見られる。

背景2 小中一貫教育推進の必要性 補足説明②

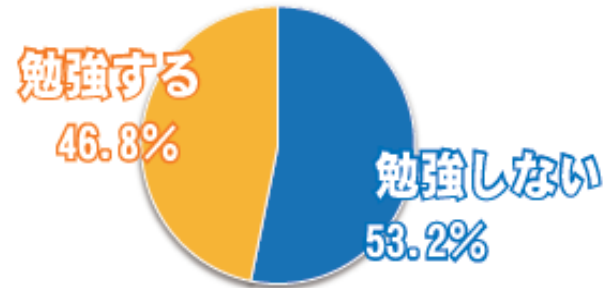
町内の 小学校 6年生に 聞きました

中学校に行くことについてのアンケート

Q1 中学校に行くことについて心配なことは何ですか？

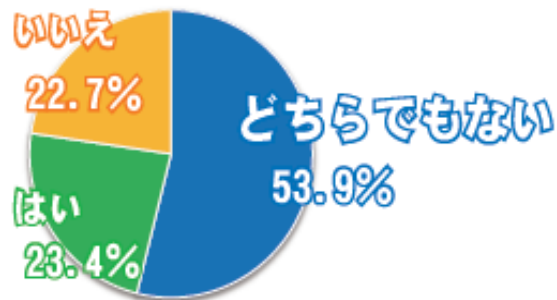


Q3 自分から進んで勉強しますか？



Q2 自分のことは好きですか？

(※3) 自己肯定感についての質問



Q4 休日に一緒に過ごすことが多いのは？

1位 家族 77.9%

2位 同学年の友達 9.3%

3位 異学年の友達 3.9%

(※3) 今の自分を認め、尊重すること。日本の子供たちは、この「自己肯定感」が諸外国に比べて低いと言われています。(文部科学省HPより)

背景2 小中一貫教育推進の必要性 補足説明③

「中一ギャップ」の解消の必要性

小学校から中学校への進学に際し、いじめや不登校が急増したり、学習についていけないなど、**新しい環境で学習や生活面に不適応を起こす現象(これを「中一ギャップ」と呼んでいます。)**が増えているとの指摘があります。子供たちの心や体の成長のほか、**小・中学校間の教育活動の差異**など、さまざまな要因が重なって生じると考えられています。

	小学校	中学校
授業形態の違い	学級担任制	教科担任制
指導方法の違い	ていねいにきめ細かく指導 比較的活動型の学習が多い	スピードが速い 講義形式の学習が多い
試験・評価方法	定期試験はない 関心・意欲・態度が重視される傾向	定期試験が中心 知識・技能が重視される傾向
指導手法の違い	規範意識の醸成を図る指導	規範意識を育成する厳しい指導
部活動の有無	スポーツ少年団等に個々に参加する	学校の教育活動の一環として、部活動が行われ、先輩後輩の上下関係が出てくる。

背景3 将来、町が進める学校教育施設整備の方向性 補足説明①

～ 川島町公共施設個別施設計画P18から一部抜粋 ～

施設名	建築年度	構造	築年数	延床面積(m ²)	年次計画	
					2021～29 令和3～11	2030～39 令和12～31
中山小学校	1978 昭和53	鉄筋コン	42	6,069.71	適切な維持管理	統廃合(小中一貫校の新設・一校化)の検討・実施
伊草小学校	2005 平成16	鉄筋コン	15	5,152.92	適切な維持管理	統廃合(小中一貫校の新設・一校化)の検討・実施
つばさ南小学校	1968 昭和43	鉄筋コン	52	2,507.96	統廃合の実施	除却・売却・譲渡、跡地利用の検討・実施
つばさ北小学校	1970 昭和45	鉄筋コン	50	2,527.88	統廃合の実施	除却・売却・譲渡、跡地利用の検討・実施
川島中学校	1996 平成7	鉄筋コン	24	7,544.31	統廃合実施・大規模改修の検討、実施	統廃合(小中一貫校の新設・一校化)の検討・実施
西中学校	1993 平成4	鉄筋コン	27	9,272.00	適切な維持管理	統廃合(小中一貫校の新設・一校化)の検討・実施

3 小中一貫教育校の校舎整備イメージ

令和7年度～【目途】

小中連携教育

中山小学校



〔 R7児童数 193人
学級数 7学級 〕



連携・交流

西中学校



〔 R7生徒数 192人
学級数 6学級 〕

伊草小学校



〔 R7児童数 233人
学級数 9学級 〕



連携・交流

小中学校が互いに連携・交流しながら、
共同で授業や行事等を行います。
伊草小学校は川島中学校とも連携・交流します。

施設一体型小中一貫教育校 (先行統合)

小中一貫教育校
(川島中学校内)



〔 つばさ南・つばさ北小の統合校
R7児童数 222人
学級数 10学級 〕

〔 川島中学校
R7生徒数 197人
学級数 6学級 〕

小学校5、6年生は現在の川島中学校
校舎に入り、小1～4年生は、新た
に増築する校舎(小学校低学年棟)に
入る計画です。

令和17年度～【目途】

施設一体型小中一貫教育校 (最終統合)






新しい校舎

〔 つばさ南・つばさ北小、中山小・伊草小の
統合校 R17児童数 294人
学級数 12学級 〕

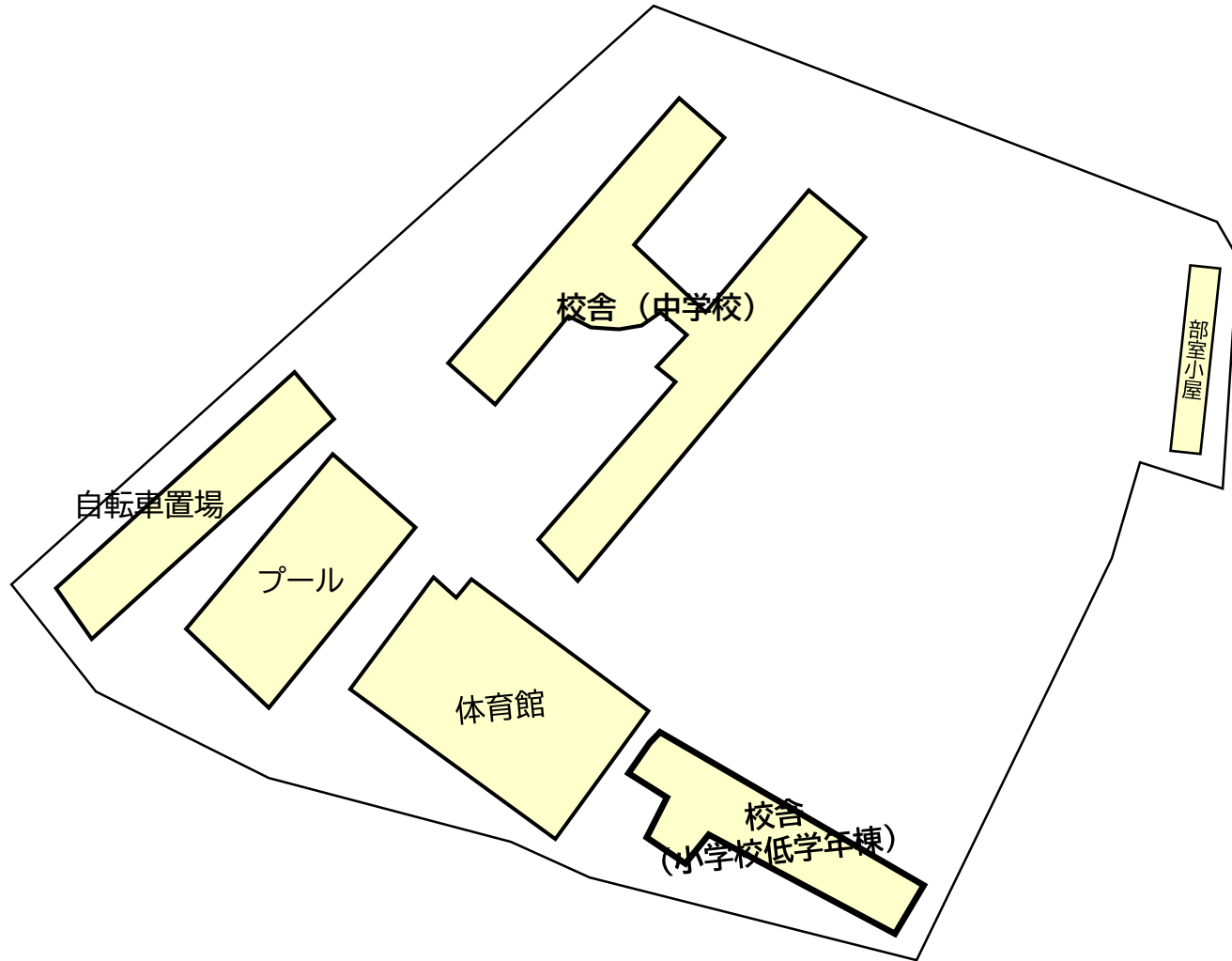
〔 川島中・西中の統合校
R17生徒数 188人
学級数 6学級 〕

小中一貫教育校として、新しい校舎を新設す
る予定です。

補足説明① 小中一貫教育校の形態について

小中一貫 教育校の形態	施設分離型	施設隣接型	施設一体型
<p>説明</p>	<p>小・中学校の校舎、敷地が独立しながらも、教職員と地域の密接な連携により、小中一貫教育を実施する学校</p>	<p>小・中学校の校舎は独立しながらも、同一敷地又は隣接する敷地に設置され、小中一貫教育を実施する学校</p>	<p>小・中学校の校舎が、同一敷地内にあることを活用して、小中一貫教育を実施する学校 ※ 校舎が小・中学校で別々であっても渡り廊下で繋がっているものも含む。</p>
<p>イメージ</p>	<p>例) 小学校 中学校</p>  <p>敷地 敷地</p>	<p>例) 小学校 中学校</p>  <p>敷地A 敷地B</p> <p>※敷地Aと敷地Bは隣接している</p>	<p>例) 小学校・中学校</p>  <p>敷地</p>

補足説明② 小中一貫教育校化に伴う川島中学校の整備概要



小学校1～4年生の教室を増築(小学校低学年棟)し、既存校舎(中学校校舎)と渡り廊下で繋がります。

小学校5～6年生は、既存校舎(中学校校舎)の1階教室に入ります。

小学生と中学生の活動が重ならないよう、スペースを分けたり、時間割を工夫するなどし、安全対策を検討します。

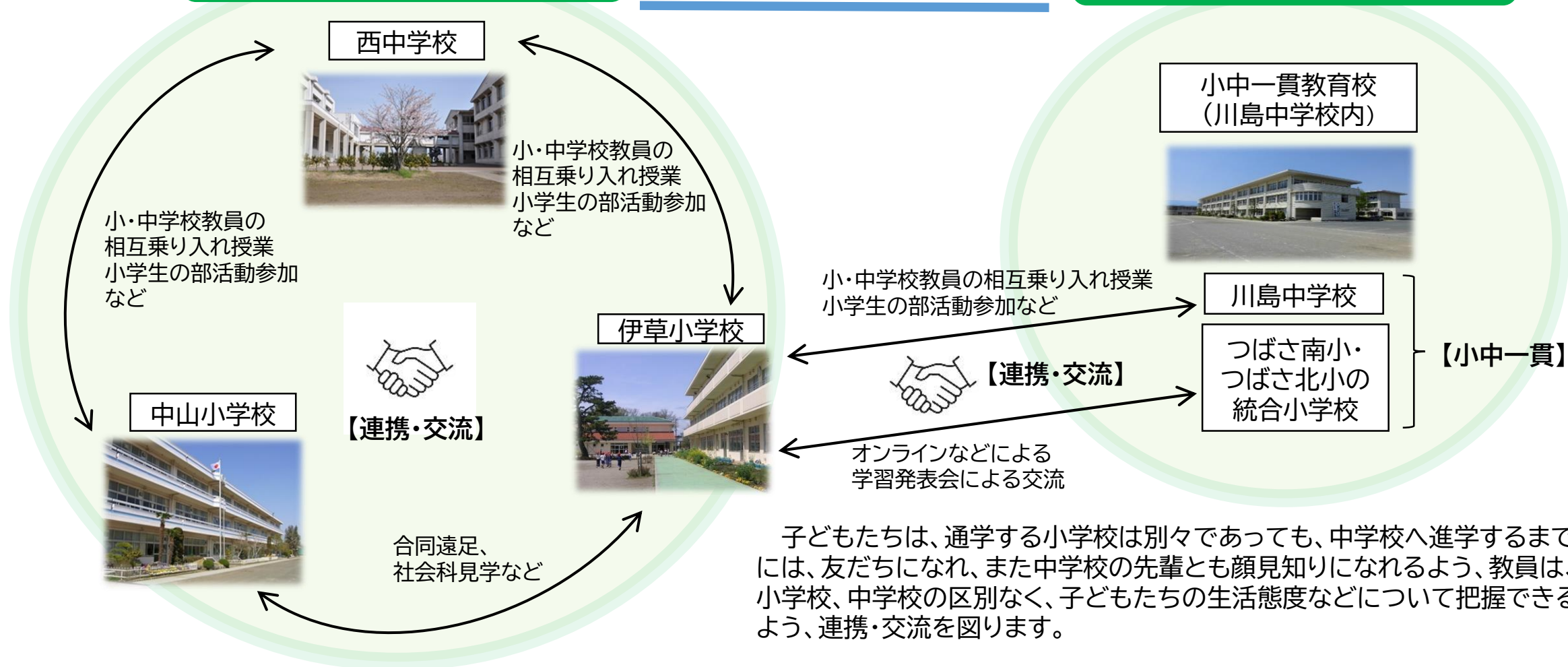
小学生にとって危険な箇所や、老朽化した箇所の改修を検討します。
手摺の設置、電灯LED化、トイレの洋式化など

補足説明③ 小中・小中の連携交流でやること できること

「9年間を見通した教育目標」
小・中学校で目指す子ども像を共有

基本的には、
同じ教育目標を策定します。

「9年間を見通した教育目標」
小・中学校で目指す子ども像を共有



中学校区	西中学校		川島中学校	
	中山小学校	伊草小学校	統合小学校 (旧つばさ南小・旧つばさ北小)	
教育目標 目指す児童生徒像等	西中学校区・川島中学校区で共通した教育目標を設定			
教育課程	教育課程に基づいた9年間の系統的な教育課程を設定 ※学校行事等については、施設の形態(一体型・分離型)による違いはある			
児童生徒と 教職員との 交流	○西中学校教員による乗り入れ 授業・チームティーチングを 計画的に実施	○川島中学校教員・西中学校教員による 乗り入れ授業・チームティーチング を計画的に実施	○川島中学校教員による乗り入れ 授業・チームティーチングを計画的 に実施	
他校児童との 交流	○中学校体験時に交流活動を実施 ○オンライン授業にて学習発表会等を実施		○中学校体験時に交流活動を実施 ○オンライン授業にて学習発表会等を実施	
		○中学校区ごとの学習発表会の情報 共有		
児童と生徒との 交流	○西中学校の社会体験チャレンジ 等	○川島中学校・西中学校の社会体験 チャレンジ等	○学校行事や部活動等で交流	
中学校体験	○西中学校にて授業・部活動体験		○川島中学校に て授業・部活動 体験	○常時可能 ○部活動は5年生から希望者による 参加

4 小中一貫教育でやること できること

これまでの
小中学校



これからの
小中一貫教育校

小学校、中学校の枠にとらわれず、**9**年間を見通した質の高い教育を展開します



基礎基本の徹底、学習習慣の確立、生活力の向上	基礎基本を活用した学びの充実、豊かな人間関係づくり	学びの深化・発展、応用力の向上、社会への実践力の育成
◆小中学校の教師が学び合い高め合う教育活動の展開◆		
学級担任制：45分授業		教科担任制：50分授業
<ul style="list-style-type: none"> ●仲間づくりと学習習慣、生活規律 ●学びの楽しさ、分かる喜び ●学んだことの活用 ●相手の気持ちを考えての行動 ●折り合いをつける力 ●4年生がリーダーで活動 ●早期からの外国語活動(中学校教師の参画) 	<ul style="list-style-type: none"> ●協働的な学び ●探求心 ●自己肯定感 ●中学校へのスムーズな接続(中1ギャップ) ●積極的な小中の授業交流 ●5年生から部活動(希望者) 	<ul style="list-style-type: none"> ●思考力、判断力、表現力 ●未来を切り開く力 ●自分らしい生き方・在り方 ●地域・社会を意識した実践力 ●希望する進路の実現 ●学習のきめ細かい対応(小学校教師の参画)
9年間の教育活動の重点とねらう力		
<ul style="list-style-type: none"> ●重点：ICT教育、英語教育、キャリア教育、特別支援教育、道徳・特別活動、総合的学習の時間 ●ねらう力：論理的な思考力と問題を解決する能力、創造性とチャレンジ精神、コミュニケーション能力 等 		
<p>■ 地域に目を向け 地域に働きかけ 地域を愛する ■</p> <p>“未来のかわじままち”を創る川島っ子の育成</p>		